

肥育豚への粃米サイレージおよび未利用資源給与技術の確立

畜産研究部 豚・鶏チーム

1. 研究の背景

生産コストの3分の2を飼料費が占める養豚経営において、飼料コスト削減が緊急の課題となっている。本試験では県内の養豚生産者で利用がない粃米サイレージ（イネSGS）と蛋白含量の高い未利用資源の麦焼酎粕（生へこ）を混合給餌することで飼料コストの削減及び未利用資源の活用促進を図ることを目的とし、肥育成績及び枝肉成績や食味への影響を検討する。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

1) 一般配合飼料にイネSGSを40%、イネSGS30%生へこ10%混合しても発育成績及び枝肉成績に影響はない（表1）。

表1：発育成績及び枝肉成績

	開始体重 (kg)	出荷体重 (kg)	1日増体重 (kg)	枝肉重量 (kg)	歩留まり (%)	背脂肪厚 (cm)
対照区	68.7	120.8	0.83	79.2	65.6	1.70
SGS40%区	68.6	116.2	0.76	75.4	64.9	1.90
SGS30%生へこ10%区	67.2	113.0	0.73	72.9	64.5	1.82

2) 肥育後期の飼料コストが最大18%削減できた（表2）。

表2：飼料要求率及び飼料コスト

	採食量 (kg/頭・日)	飼料要求率	飼料コスト削減率 (%)
対照区	2.98	3.49	—
SGS40%区	3.32	4.25	18.34
SGS30%生へこ10%区	3.66	4.88	13.55

飼料コスト削減が可能

3) イネSGS及び生へこを給餌しても、食味に影響はなかった（図1、写真1、写真2、写真3）。

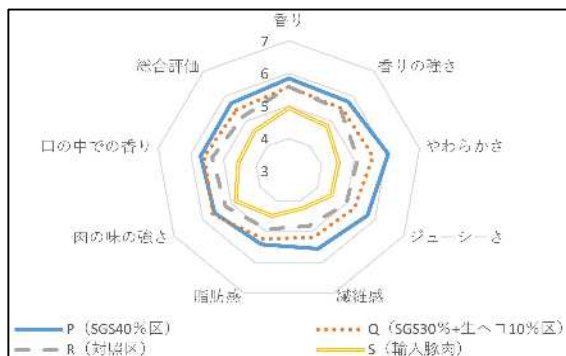


図1：官能評価試験結果



写真1：対照区

写真2：SGS40%給与区



写真3：SGS30%生へこ10%給与区

【注意】

本試験で使用したイネSGSは、未乾燥の生粃米を圧縮膨潤化装置にて圧縮・加圧・加水する過程で組織破壊し、加圧熱(60～70℃)にて熱処理後、乳酸発酵させサイレージを調整したものを使用して試験を実施した。

3. 期待される効果

- 一般配合飼料にイネSGSを40%混合することで、飼料コストを18%削減できる。
- イネSGSや生へこを混合給餌しても、対照区と遜色ない豚肉の生産ができる。

4. 担当機関連絡先

畜産研究部 豚・鶏チーム

TEL：0974-22-0673

住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8